

>> 伊坂幸太郎風

職業柄、よく「最近の介護職員は〇〇しない」という話を耳にする。  
先日も、ある経営者がコーヒーを啜りながら、こう言った。

「最近の子たちは、レクリエーションをやりたがらないですよ。QOL の向上って言うてもピンと来てないみたいで。頭の中には“自立支援”しかないって感じです」

たしかにその光景は目に浮かぶ。

レクリエーションの時間、職員がピアノの前で所在なげに突っ立っていたり、風船バレーの誘いに「それ、意味ありますか？」なんて口走ったりしてるかもしれない。

でも、それって本当に「やる気がない」からなのか。  
それとも、「やる意味」が彼らにとってまだ言語化されていないだけなのか。

そんなことを考えていたら、頭の中に神官が出てきた。  
——古代エジプトの話だ。

数千年前の石板に、こんな一文が残されていたという。  
「最近の若者は敬意がない。年長者の言うことを聞かず、礼儀も知らない」  
この文言、たぶん今でも SNS でバズる気がする。

さらに続けて、別の記録には、ある神官がこうぼやいていたそうだ。  
「最近の若者はヒエログリフを勉強しようとしな。これでは神の言葉が伝わらん」  
ヒエログリフ。つまり聖刻文字。

それは当時の“ケアプラン”のようなものだったのかもしれない。  
伝えるための技術。つなぐための言葉。

そして今、僕らは“QOL”や“レクリエーション”をめぐる、また同じようなことを繰り返している。

